

<H10-5-A : 問題>

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づき実施する数値地形測量におけるデジタルマッピングについて述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

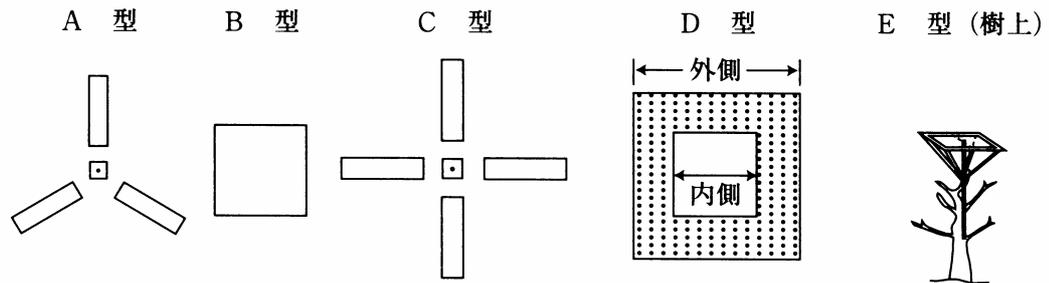
1. デジタルマッピングとは、地形、地物などの地図情報をデジタル形式で測定し、数値地形図を新たに作成する作業であり、地形図原図作成を含む。
2. 地形図原図作成とは、解析図化機、座標読取装置付きアナログ図化機又はそれらと同等の機能を有する機器を用いて、地図情報を数値形式で取得し、記録する作業をいう。
3. 接合については、モデル間及び隣接する図郭間で座標を一致させる。
4. 取得する数値図化データには、地形、地物などの種類を示す分類コードを付ける。
5. 数値編集とは、現地調査などの結果に基づき、編集装置を用いてデータの修正、追加、削除などを行う作業である。

<H10-5-B : 問題>

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づき実施する対空標識の設置作業について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

ただし、文中のA型、B型、C型、D型及びE型の形状は図 5-1 のとおりである。

図 5-1



1. 縮尺 1/20,000 の空中写真の撮影を行うために、樹上にE型の標識を設置する場合は、対空標識板の大きさは 30 cm × 30 cm とする。
2. 偏心点にB型の対空標識を設置する場合は、標杭を設置し、これを中心として対空標識板を取り付ける。
3. 建物の屋上に設置する場合の対空標識板の形式はA型、C型又はD型とし、ペンキで直接描くことができる。
4. 対空標識板の色は白色を基準とするが、周囲の状況を考慮し、黄色又は黒色とすることができる。
5. 対空標識板の材質は耐水性ベニヤ板又は化学合成板とする。

<H10-5-C : 問題>

飛行高度 3,500mの上空から、航空カメラで鉛直空中写真を撮影した。この空中写真に写っている 2 点 A, B 間の間隔を密着空中写真上で測定したところ 90mmあった。この 2 点を縮尺 1/25,000 地形図にプロットしたとき、これらの点は地形図上でどのくらい離れているか。次の中から選べ。

ただし、カメラの画面距離は 15 cm、画面の大きさは 23 cm×23 cm、撮影基準面は標高 500mとし、点 A, B は撮影基準面上にあるものとする。各図において X 及び Y 方向は共通である。なお、関数の数値が必要な場合は、関数表を使用すること。

1. 12mm    2. 47mm    3. 72mm    4. 84mm    5. 96mm

<H10-5-D : 問題>

図 5-2 の a ~ e は、アナログ図化機の投射器と標定要素の動きを模式的に図示したものである。また、図 5-3 の 1 ~ 5 は、図 5-2 の a ~ e それぞれの標定要素をある方向に動かしたときの写真の投影像の動きを模式的に図示したものである。図 5-2 の a の標定要素を動かした場合の写真の投影像の動きを示すものはどれか。正しいものを図 5-3 の 1 ~ 5 の中から選べ。

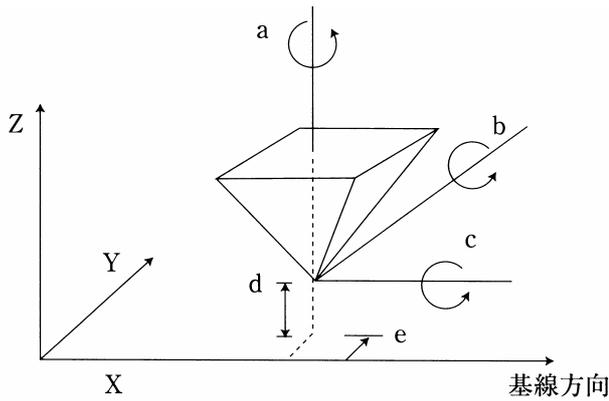


図 5 - 2

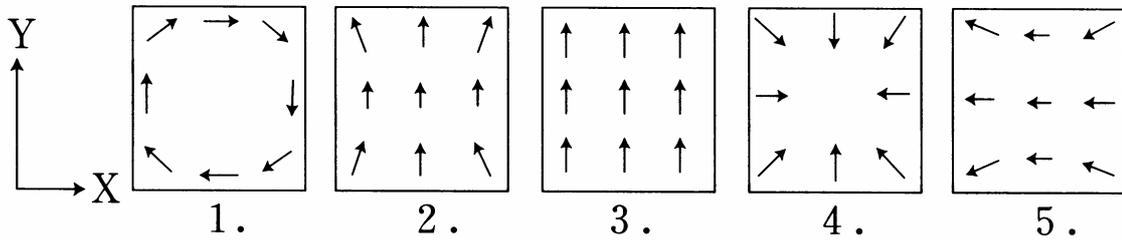


図 5 - 3